

関西経済連合会との意見交換会

日時：平成29年8月3日（木）

午後0時45分～午後2時45分

場所：大阪府国際会議場 特別会議場12F

開会 午後0時45分

○関西経済連合会専務理事（関総一郎） それでは、ただいまより、関西広域連合と関西経済連合会との意見交換会を開催いたします。

私、本日の進行を担当させていただきます、関西経済連合会の専務理事の関でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

最初にご出席の皆様のご紹介をさせていただくべきところではございますが、時間が限られておりますのでお手元の名簿をもってかえさせていただきます。

まず初めに、関西経済連合会を代表いたしまして松本会長よりご挨拶申し上げます。松本会長、よろしくお願いいたします。

○関西経済連合会会長（松本正義） はじめまして。私、2カ月前に関西経済連合会の会長に指名されてここに至っているわけでございます。今日は本当にお暑い中、井戸連合長はじめ、知事、市長の皆様におかれましてはご多忙の中、関経連との意見交換の機会を賜りまして、まことにありがとうございます。

それでは、経済界と関西広域連合のこういう意見交換会が今回で11回目になるようございまして、随分と前より深い意見交換を11回やってきたということでございます。それで、その中から関西観光本部とか健康医療のプログラム等が形成されていったということで、この意見交換会は非常に重要な意義を持っていると私は思っております。今回も、今日の意見交換会も、さらに前以上に内容のあるものと思っておりますので、何とぞよろしくお願いいたします。

本日は3つのテーマを掲げてございまして、1つは、もういろいろやっていますが、万博誘致が1つ目。それから2つ目はワールドマスターズゲームズ等関西でいろいろ

と、スポーツ振興等が持ち上がってございまして、このスポーツ振興というのが2点目。それから、従来から地方分権等の非常に根深いものがいっぱいございます、広域行政、広域インフラのあり方の、この3つのテーマで意見交換させていただきたいと考えます。

そして、この3点につきましては、私のほうから概略をご説明いたしますけれども、副会長のほうから詳しい内容をご説明いたしますので、よろしく願いいたします。

まず、私のほうから万博の件です。誘致レースが今、始まったばかりでございます。来年11月のB I E総会でこの誘致をぜひ勝ち取るために、今、海外のP R、国内の機運醸成など、さまざまな課題につきまして地元関西の経済界としまして関西広域連合の皆様と、本日、松井知事、吉村市長に参列いただいておりますけれども、大阪府、大阪市をはじめ、国や誘致委員会、ほかの団体とも連携しながら今、全力で取り組んでいるところでございます。

海外のP Rにつきましては、直近では先月、7月下旬でございますけれども、カザフスタンのアスタナ博覧会で、ジャパンデーに私も関西経済界の代表として参加いたしました。世耕大臣、松井知事とともに1日で多くの国を回りまして、1ラウンドハーフぐらい回ったんじゃないか。もう3人ともくたくたになりまして、大変その晩のお酒がおいしかったということを松井知事も言ってましたので、私もそうだと思います。ということで、とにかく一生懸命やっているとというのが現状でございます。

国内の機運醸成につきましても、万博誘致のロゴマークを活用したP R活動など、関経連から多くの企業に対して協力を呼びかけておりまして、今、賛同いただいている法人が1,300社ぐらいになったでしょうか。初めは50社とか60社ぐらいだったんですけども、いろいろお願いしたところ1,300社の法人の方が、団体の方が賛同いただいております。今度、ぜひ来年の11月に招致を勝ち取るためにこれからも一生懸命経済界はやっていきますので、ひとつ関西広域連合の皆さんとも、よろしく願いしたいと思います。

それからスポーツの振興でございます。2019年から2021年にかけて、ラグビーから始まりまして、ワールドマスターズゲームズ、ゴールデン・スポーツイヤーズを契機に、関西を元気にする、また関西の新たな成長産業創出につなげるべく関経連では今年から委員会を設置して取り組んでまいっております。このスポーツ振興の副会長を2人指名しておりまして、やるぞという感じでやっておりますので、またよろしくお願ひしたいと思ひます。

また、関西広域を会場とするワールドマスターズゲームズ2021関西について、国内外でのPR強化の取り組みとともに、そのレガシーを関西のスポーツ産業の発展につなげていくことが非常に重要だろうと思ひてございます。

また、本日はこうしたスポーツ振興の課題や対応策などを検討いたしまして、今後、官民連携を推進していくための検討体制について認識を共有させていただければと思ひております。

それから3点目の広域行政のあり方でございますけども、もう井戸連合長、ご承知のように、関経連では長年、地方分権・道州制というテーマに取り組んでまいりました。私も副会長でこの件については責任を持たされてたんですけども、なかなかこれがうまいこといかないということでございます。

現在、人口減少が急速に進む中で地方のあり方が改めて問われており、IoTとかAIなどの先端情報技術を駆使して地域の個性が十分に発揮され、地域の活性化に結びつくような行政の仕組み、受け皿など、関西広域連合とも連携を密にして検討していく必要があると思ひております。

また広域インフラでは、昨年度、リニア中央新幹線の名阪間、開業8年の前倒し、北陸新幹線の敦賀以西ルート決定など、関西活性化の動脈となるインフラ整備の面でも大きな前進が見られました。リニア中央新幹線が全線開業すれば3大都市圏が約1時間圏内となりまして、こうした動きを関西の次なる発展につなげていくことが重要であります。

以上、3点ほど申し上げましたが、関西広域で官民ががっつりと手を携えていることは、関西の大きな強みと認めてございます。関経連といたしましては、今後、関西広域連合とも連携を一層強化してまいりたいと考えておりますので、ひとつよろしくお願ひ申し上げます。

本日はお互いに忌憚のない、本当に忌憚のない意見交換会となりますようにお願ひいたしまして、簡単ではありますが私の挨拶とさせていただきます。今日はよろしくお願ひいたします。

○関西経済連合会専務理事（関総一郎） ありがとうございます。

続きまして関西広域連合、井戸連合長からご挨拶を頂戴いたしたいと存じます。井戸連合長、よろしくお願ひ申し上げます。

○関西広域連合長（井戸敏三） ご紹介いただきました井戸でございます。意見交換会に当たりましてご挨拶を申し上げたいと存じます。また、大変お忙しい中、このような機会をおつくりいただきましたこと、心から御礼を申し上げます。

関西広域連合でございますけれども、7年目に入り、今年3月に新しい第3期の広域計画を策定いたしました。この計画に基づいて、今後より一層、構成府県市が一体となって取り組みを積極的に進めてまいりますので、今後ともご指導とご支援をお願ひ申し上げたいと存じます。

まず、関西観光本部についてでありますけれども、広域連携DMOとして関経連の方ともご相談を申し上げながら、4月1日に一般財団法人関西観光本部が設立されました。早速、4月中旬に関西広域連合と関西観光本部と関西の経済界等が連携してトッププロモーションをオーストラリアで行わせていただいたわけでございます。

早速に成果が上がりまして、カンタス航空が12月14日から、とりあえず3月中までの季節便ではありますが、関空からシドニーに直行便を運行してくれることになりました。これもプロモーションの結果であろうかと思っております。ただ、季節便でありますので需要がないと続けてくれないということになりかねませんので、我々も利

用促進策を検討していかないといけないということを、先ほど委員会で申し合わせたばかりでございますが、関西財界としまして、ぜひ継続のためのご協力をお願いできればと願っております。

今後も国内外に関西ブランドの売り込みを展開させていただくべく、この本部を中心とした活動、期待をしております。

お触れいただきましたように、この4月の中旬から下旬にかけてニュージーランドのオークランドで第9回のワールドマスターズゲームズが開催されました。開会式、閉会式ともにそれぞれ代表団を送ったわけではありますが、特に閉会式にあたりましては森前会長が中心となられまして、チャーター便まで用意してご視察をしていただきました。

私は開会式のほうに出たわけではありますが、印象としては、関西全体で開くことに我々はしておりますけれども、オークランドも四、五年前に広域合併をして広域都市になっていましたので、ある意味で、かなり広いエリアで競技が展開されておりました。ボランティアの方々を中心に運営をされていたわけではありますが、その様子を見る限りは、大変スポーツを愛好する人たちが和気あいあいとスポーツに参加をされて興じておられるという雰囲気をよく味わうことができまして、広域であっても十分に開催できるという自信を持つことができたのではないかと考えております。

そして我々、10回目やるから、ぜひ日本、関西に来てくれという話を参加者に勧めたところ、ほとんどの人がぜひ行きたいという話をされておられましたので、できるだけ早く準備を整えて情報をホームページを通じてでもいいから発信していくことが重要だということを痛感して戻ってまいりました。実行委員会のほうにもその旨、できるだけ準備を早くして、詳細が決まらなくても概略が、骨格が決まったら情報提供していくことが非常に重要だ、このように痛感をしてきたのものでございます。今後とも、官民挙げての盛り上がりを含めて推進を図らせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

また、2025年の日本万博でございますけれども、先ほども会長から力強いご挨拶でお触れいただいたわけでありますが、関西広域連合としても4月に誘致対策会議を設けまして、誘致委員会と連携しながら機運の醸成に取り組んでまいります。

先ほども委員会で申し合わせたばかりでございますが、構成府県市の議会の誘致決議とか、あるいは委員会へのメンバーとしての参加などにつきましても、盛り上げのためにさらに努力をしていきたいということとしております。関西から燃えないと全国も燃えてくれませんか、まずは関西から燃えていく、推進を図っていくことが重要なのではないか、このように考えているものでございます。

北陸新幹線のお話もありました。3月に大阪までの全区間ルートが決定されたわけですが、5月23日には促進同盟会や関経連等とともに、政府や関係省庁に要請を行ったものでございます。大阪までの1日も早い整備の実現に向けて働きかけを行っていきたくと思います。北陸新幹線については敦賀までは福井、それ以降は京都、大阪を経由するわけでありますので、ある意味で私たち関西がこれからの整備促進については中心になっていく必要があるのではないか、そのように思っておりますので関経連の皆様ともども、官民挙げてその促進に臨ませていただければと考えております。

政府関係機関の関西の移転につきましては文化庁の基本的な全面移転が京都にということが決まりましたし、消費者庁につきましても徳島で消費者行政新未来創造オフィスが設置されましたし、和歌山では統計データの利活用センターが整備されることになって準備が進められております。また、中小企業庁の中小企業政策調査課が近畿経済産業局内に環境省の国立環境研究所琵琶湖分室が滋賀県の琵琶湖環境科学研究センター内に4月1日設置されております。

そのような意味で政府間の中央移転につきましては、そのほとんどが関西に立地をしていただいたわけでありまして、これは関西広域連合のみならず関西の財界や関係の皆様方のお力添えによるものでございますので、改めてお礼を申し上げますととも

に、これからどう生かしていくかということが大切でありますので、そのような意味でさらに、国に関西でも十分機能するんだということを実証してまいりまして、関西が日本列島におけるもう一つの極だという実質的な存在感を示していきたい、このように考えているものでございます。

なお、過去の意見交換委員会でも話題になっておりました防災庁の創設でございますけれども、この7月に連合が設けておりました有識者懇話会の報告を受けました。今後、この防災庁の創設につきましてはシンポジウムなどを開催して、その必要性、特に事前対策の、事後対策だけではなくて事前対策の重要性をしっかりと訴えて創設に結びつけていくようにしていきたいと考えております。そのような意味でも実現に向けてのご協力をお願い申し上げたいと存じます。

女性の活躍推進につきましても、過去の意見交換会で提案をいただいていたものでございます。現に関西はM字カーブのMの刻みが深いということがありますので、そのような意味では関西がさらにもっと女性の活躍を促していく、そういう地域であり、女性の活躍推進のための対策を展開していきたいと思っております。今後、広域連合協議会の部会の中に女性の活躍推進会議などを設置いたしまして、経済界と協働して取り組んでいきたいと考えておりますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

またスポーツを通じて関西の元気を誘引するということのご提言もいただいております。ワールドカップ、そしてオリンピック、パラリンピック、ワールドマスターズ、それが2025年の万博誘致へとつながっていくことを期待いたしております。そのような意味で、これからのテーマはやはり健康ということが非常に大きなテーマに成り得るわけでありまして、その健康をどう確保していくかという見地からも、スポーツという点について重点を置いた取り組みが必要だと思っております。

あわせて医療を巡る諸産業は関西に立地しているわけでありまして、そのような意味でも、関西の地の利をどう生かして今後のテーマにつなげていくかということが問われていると、このように思います。そのような意味でもご協力とご指導をお願い

したいと思えます。

本日の意見交換会では、それぞれ幅広の意見交換をぜひさせていただいて次の関西の発展につないでいきたい、このように願っておりますので、どうぞよろしく願いを申し上げます。ありがとうございました。

○関西経済連合会専務理事（関総一郎） ありがとうございました。

それでは意見交換に入りたいと存じます。先ほど松本会長からもご紹介ありましたとおり、本日は万博誘致、スポーツ振興、広域行政のあり方及び関連する広域インフラという3つのテーマについて関経連の副会長から代表発言をさせていただき、主にそれらのテーマについて意見交換をしたいと存じます。各テーマの概要はお手元にお配りしておりますパワーポイントの資料に記載してございますので、適宜ご参照いただければと存じます。

それでは最初に万博誘致について大竹副会長からご発言お願いいたします。大竹副会長よろしくお願いいたします。

○関西経済連合会副会長（大竹伸一） 関経連で万博担当をしております、大竹でございます。

私からは2025年万博誘致に関して2点ほどお話をさせていただきたいと思えます。お手元のほうに資料の1ページを見ながらお話をお聞きいただければ幸いです。

まず1点目は、関西の広域連合様、あるいは関経連とともに参加しております2025日本万国博覧会誘致委員会の活動についてであります。この委員会、3月27日に発足をしましたけれども、この万博の誘致に向けて国内の機運醸成、あるいは海外のプロモーションということで官民一体となって今、取り組んでいるところでございます。

まず国内の機運醸成ということにつきましては、誘致委員会も活動に賛同いただける法人及び個人会員の拡大に取り組んでおります。会員数につきましては先ほど松本会長がおっしゃったとおり、非常に今、会員数が拡大しておりますし、さらにこれからも拡大に向けて努力をしてまいりたいと思っております。

また、駅や空港へのロゴマークですね、これの露出を高めるということで、ロゴマークを掲載したポスターの掲示、さらには甲子園球場や、あるいは吹田のスタジアムというところで大型ディスプレイ、いわゆるオーロラビジョンでの映像の放映等を通して万博の誘致をPRしているところであります。

それから海外のプロモーションにつきましてはBIE総会でのプレゼンテーションが、先ほど会長からもお話ありましたアスタナ万博への参加などを通して、万博の開催意義や、あるいは関西の魅力を発信しているところでございます。

私も6月に2回、自民党幹事長を団長とする日韓観光・経済交流団に同行いたしまして、韓国の外交部、あるいは2012年に韓国で開催されました麗水万博の関係者に会いまして、日本の支持、協力をお願いを申し上げました。韓国側には好意的に捉えていただいたものと実感をしております。今後は、こうした取り組みを加速させまして誘致競争を勝ち抜いていきたいと思っております。

2点目は、今後の関西広域連合様との連携についてでございます。関西広域連合様では2025日本万国博覧会誘致対策会議を設置されて取り組みを進めていただいていると伺っているところでございます。府県民へのPR、あるいは海外の訪問時、あるいは海外の友人が来られた際などの機会を利用して、さらに積極的なPRなどを推進していただければありがたいと思っております。

国内の機運の醸成に向けては、関西広域でいわゆる公営の鉄道、あるいはバスといったところにも万博PRを拡大していければと思っております。やはり万博誘致の認知向上、あるいは万博開催への共感獲得のための行事と、こういったものもこれからいろいろ計画されることと思えますけれども、これらの行事についても一緒に開催できればと考えております。

さらに、今年11月に予定されておりますBIE総会でのプレゼンテーションでは、国民の支持の広がりといったものがやはり大きなアピール要因になるということでございます。これに向けて誘致委員会も法人及び個人会員の入会勧奨などを、さらに私

どもも進めていきたいと思っております。

それから、海外でプロモーションについても、毎年、経済界からも参加させていただいております関西広域連合のトッププロモーションというものがありますけれども、これにおいても、ぜひ万博のPRを行っていただければ幸いだと考えております。

最後に、この会合も年2回程度開催しておりますけれども、来年の1月ごろの次回会合には、私ども関経連だけではなくて関西経済連合会、あるいは大阪商工会議所をはじめとする各地の商工会議所の代表者にもご参加をいただきたいと思っております。関西の広域での機運醸成につなげるためにも、次回のこの会合をぜひ大阪府の咲洲庁舎で開催をしていただいて、あわせて万博の開催候補地である夢洲を視察してはいかがかと考えております。さらに来年の1月から3月ごろのBIE調査団の来日を控えた時期でもあり、関西での官民での現地視察も交えまして、今後の誘致活動といった意見について交換をさせていただければ幸いだと思っております。私ども、精いっぱいこの万博の誘致に向けて頑張りたいと思っておりますので、関西広域連合様についても引き続きご協力のほど、よろしく願いをいたします。

私からは以上でございます。

○関西経済連合会専務理事（関総一郎） ありがとうございます。

続きましてスポーツ振興について、佐藤副会長からご発言お願いいたします。

○関西経済連合会副会長（佐藤廣士） 関経連でスポーツ振興委員会を担当しております佐藤でございます。

本日はスポーツ関連で検討課題や官民連携等について申し上げたいと思います。

冒頭、松本会長からご案内がありましたけれども、ゴールデン・スポーツイヤーズという契機を捉えましてスポーツ振興委員会を新たに設置いたしました。この委員会では関西のスポーツ及び周辺関連産業の活性化を目指した中長期的な取り組みを検討、実施していくこととしておりますが、一方でそのためには、まず、大きな国際大会が続くゴールデン・スポーツイヤーズの成功が不可欠と考えられます。特に関西におき

まして2021年のワールドマスターズゲームズに向けた準備を着実に進めていくことが求められていますので、そのためのPR強化や組織委員会とのさらなる連携を進めてまいります。

先日、井戸連合長はじめ、関西広域連合の皆様にはオークランド大会の開会式などの視察をされたわけではありますが、私ども関西経済界も150名程度の団体を組みまして、大会の後半を視察いたしました。実際、大会の様子を現地で見るとマスターズゲームズ特有のプレイヤーズファーストの空気を非常に強く感じたところであり、関西大会でもこのようなよい雰囲気をつくって参加者に関西を満喫して帰ってもらわないといけないと、思いを新たにしました次第であります。

帰国後、視察団の参加者と関西の組織委員会の皆さんとの意見交換会を行い、広域開催ならではの課題として会場間、特に閉会式会場への交通アクセスの問題や各競技開催地での地元を巻き込んだ盛り上がりの必要性などについて意見がありました。組織委員会、また、関西広域連合をはじめとした行政の皆様と協力しながら課題解決を図っていきたいと考えております。

また、マスターズゲームズに関することに限りませんが、関西広域連合と関経連で検討しておりますスポーツ振興に向けた取り組みには共通したテーマが多くあります。私たちは議論を始めたばかりですが、例を挙げますと企業や大学スポーツの振興、あるいはトップアスリートの育成、競技施設の整備のあり方、健康や観光産業とのシナジーなどについて検討していかなければいけないと考えております。今後、関西のスポーツ振興を実現していくに当たり、多くの機関や団体と密に意見交換をしながら事業を進めることで、より高い効果を期待できることも多いと思われれます。

まずは、例えといたしましてお手元の資料にございますように、事務局レベルでタスクフォースを設置して今後の官民の役割等について検討を進めていかなければならないと考えております。今後ともゴールデン・スポーツイヤーズの成功、そしてそれを契機とした関西のスポーツの振興に向けて連携を深めてまいりたいと思っておりますので

どうぞよろしくお願ひいたします。

私からは以上です。

○関西経済連合会専務理事（関総一郎） ありがとうございます。

続きまして、広域行政のあり方について真鍋副会長からご発言お願ひいたします。

○関西経済連合会副会長（真鍋精志） 地方分権と広域行政委員会を担当しております真鍋でございます。本日は地方分権の必要性ということと、その実現に向けた連携といった観点からお話をさせていただきます。

まず、レジュメにもございますけれども、これまでの経緯や現状でございますが、持続的発展のための地方分権の必要性ということを少しお話しさせていただきます。

我が国が成熟社会に移行する中、持続的に発展していくためには、それぞれの地域が特徴や強みを生かして、みずから発展戦略を描き、責任を持って実行していく体制が必要であり、それを実現する手段としての地方分権の必要性ということは、もう皆様方には申し上げる必要はないと思います。

一方で、世の中の動きを見ても、関経連では長年にわたって地方分権の必要性を主張しているにもかかわらず、残念ながら現在、政府においても国民の中でも地方分権の議論が盛り上がっているとは言えない状況でございます。しかしながら弊社の沿線地域を細かく見ておきますと、例えば大学との教育施設や医療拠点の配置といったような、みずからの強みを見定めて特色を出して拠点づくりを進めている地域には人が集まってきつつあります。

例えを申し上げますと、滋賀県で1番乗降の多いのは大津や草津ではなく南草津でございます。また高槻、茨木、岸辺、吹田といったところには大学、医療拠点といったような特色が出てきておるわけで、そうでない地域との二極化というのが大変進んできておると思っております。それぞれの地域が個性を発揮して発展戦略を描くことの重要性ということを感じているところでございます。

地方分権の議論が下火になってまいります中、取り巻く状況の変化も踏まえまして

地方分権で何をするのかというところを今、改めて示す必要があると考えております。個人的意見も含んでおりますが、その際には国と地方の役割分担の視点、そして各地域の自主的個性的な地方創生を育んでいく視点という2つが重要と考えております。

2番目に、今後の関西広域連合様との連携の深度化ということであります。1つは情報発信ですが、地方分権を実現するためには住民の皆さんが自分たちの将来を自分たちで決めるという自治意識の高まりが重要でありますし、情報発信等により世論を喚起し、地方分権についての国民的議論を活発化させるということが必要であると考えております。

関経連では前回の提言から7年余り経過する中、このような認識のもとに近年の状況変化も踏まえまして、改めてスタンスを取りまとめる予定にいたしております。関西広域連合の皆様方と協力、連携し、地方分権の必要性について、メディアによる情報発信等も活用しながら、ともに発信してまいりたいと考えております。

最後に、広域行政のあり方の検討でありますけれども、関西広域連合が地方分権改革の突破口を開くために提案募集方式の改善や大きくくりでの権限移譲に向けた仕組みの導入を提案しようとしていることには敬意を表すものでございます。

また、広域行政のあり方について検討されることは、関西広域連合が広域行政を担う責任主体となる上で非常に有意義なことだと感じております。関経連からも参加させていただき、関西の広域的な発展に向けて必要な施策やその実行に向けて課題となること、関西広域連合に必要な権限機能などについて経済界の立場からともに検討を深めてまいりたいと考えております。今後とも個別分野での官民連携を深めながら関西が地方分権の先導役となるべく連携を深化してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

○関西経済連合会専務理事（関総一郎） ありがとうございました。

続きまして、ただいまのテーマとも関連いたします広域インフラにつきまして八木

副会長からお願いいたします。

○関西経済連合会副会長（八木誠） 八木でございます。この5月から関経連の副会長に就任いたしまして、国土・広域基盤委員会を担当しております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私からは複眼型国土の形成、それとそれを進める広域交通・物流ネットワークの整備強化について発言をさせていただきます。

関西のみならず、我が国のさらなる成長に向けては、一極集中の是正や地方創生を実現し、関西が東京首都圏と並ぶ成長の核となる複眼型国土構造の形成を進めていく必要があると考えております。国においては、現在リニア中央新幹線により3大都市圏が一体化し、世界最大の経済規模を持つスーパー・メガリージョンの形成に向けまして、国土形成計画に基づいた検討が本格的に進められていると伺っております。こうした中で、この関西がスーパー・メガリージョン拠点の一翼を担い、複眼型国土を形成していくために、次の2つの取り組みを進めていくことが重要ではないかと考えております。

1つは、関西の成長エンジンとなる新たな産業の創出であります。健康医療分野、また歴史文化といった観光分野がございますが、こうしたことに加えてAI、ロボットとか、あるいは環境エネルギー産業など、関西の官民が一体となって議論を行い、また協力体制を強化しながらこうした産業の創出につなげていく必要があると考えております。

もう1点は、政府関係機関の移転であります。政府関係機関の関西への移転に関しましては、関西広域連合の皆様と連携し国に働きかけてまいりました。文化庁の京都への全面移転に向けた着実な動きが見られるとともに、先月末にはグランフロント大阪内に独立行政法人工業所有権情報・研修館の関西拠点が設置されたことは大変喜ばしいことだと思っております。こういった政府機関がこれからもどんどん移転をし、そしてまた実際に機能していくと、そうしたことが災害時の首都圏のバックアップ機

能の強化などにもつながり、また、関西における雇用の確保、経済成長にもつながっていくのではないかと考えております。引き続き、官民が協力してまいりたいと思っております。

次に、この複眼型国土の形成を支える広域交通・物流ネットワークの整備強化についてでございますが、とりわけ北陸新幹線やリニア中央新幹線は関西圏のみならず西日本全体の活性化に資するという点でも大変重要なインフラであると考えております。北陸新幹線につきましては、本年3月に敦賀、大阪間のルートが正式に決定されました。関西が先頭に立ち、北陸の経済界、自治体と共同し、国や連携機関に対しまして1日も早い全線開業を一層強く要望してまいりたいと考えております。

また、リニア中央新幹線につきましても関西広域連合の皆様、名古屋以西の沿線自治体、そしてまた経済団体が一体となって早期全線開業に向けた公的支援策の具体化、そして実行、こういうことを引き続き国に働きかけていく必要があると考えております。

以上、申し上げました複眼型の国土構造の形成、交通・物流のネットワークの整備促進強化につきましては、引き続き今後とも関西広域連合の皆様と経済界との連携を一層深めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

私からは以上でございます。

○関西経済連合会専務理事（関総一郎） ありがとうございました。

ただいま万博誘致、スポーツ振興、広域行政のあり方・広域インフラの3つのテーマにつきまして、関西広域連合に期待申し上げる点や、官民連携強化に向けての考え方につきまして、関経連のほうから発言をさせていただきました。まずはこれら3つのテーマについて関西広域連合の井戸連合長から総括的なコメントをお願いしたいと存じます。よろしく願いいたします。

○関西広域連合長（井戸敏三） いずれもこれからの関西が取り組まなくてはならない重大課題だと思います。特に万博の誘致につきましては、私ども、ラグビー、そ

して東京オリンピック・パラリンピック、2021年のワールドマスターズゲームズ関西、そしてその4年後に万博ですので、日本が世界に対してアピールをしていく、連続的なアピールができる大変望ましい機会だと思えますし、この機会をつかまえて、まさにインバウンドだけではなくて日本と世界とのかかわり合いをより密にしていく、こういう形で捉えていかななくてはならないと思っております。それだけに、しっかりと万博誘致についても私ども自身が積極的に取り組んでいきたいと考えているものでございます。

先ほどの挨拶で申し上げましたように、誘致対策会議というのを作りまして、具体策についても相談をさせていただいているわけではありますが、当面は先ほど申しましたように議会のほうで決議をしていただく、あるいは万博の誘致委員会のメンバーに入らせていただく、と裾野を広げていく努力をさせていただく必要があると考えております。

また、B I Eの視察団への対応につきましても、視察ルートにおける地元関西としてのアテンドですとか歓迎レセプションの開催なども行う必要があると考えられますので、これらに対しても地元としてしっかりと協力していきたいと思えます。

また、ご提案いただきました夢洲の現地視察でございますが、機会が与えられれば私どもとしても喜んで現地視察をさせていただければと思っているものでございます。

テーマを議論しました経産省でつくられた万博準備委員会のメンバーの皆さんは夢洲視察をなさったんですが、残念ながら私所用があつて、会議は出たんだけど夢洲視察はできてませんので、ぜひそのような意味でも機会を見つけて視察をさせていただきたいと、このように考えているものでございます。

また、佐藤副会長からございましたゴールデン・スポーツイヤーズに関連して、これを活用しながらスポーツと健康という点での多面的なアプローチを今後、続けていくべきだというご提案は全く賛成ですし、健康と、健康を巡るツーリズム、これをどのように関西から発信していくかということが大きな課題だと思っております。

それから、ニュージーランド視察で会場への交通アクセスとか、地域をどのように巻き込んでいくかということをごさいますけれども、会場へのアクセスについては、「KANSAI ONE PASS」のような関西一円の交通機関、JR、私鉄問わず、1つのパスで乗れるような仕組みをぜひつくらせていただきたいと思いますので、真鍋副会長にもよろしくご指導いただけましたら幸いかと思っております。

いずれにしても、既に開催地域が種目ごとに決まっているわけでありますので、県レベルでの実行委員会が立ち上がっているわけでありますが、できれば市町村レベルでの、開催地レベルでの実行委員会をできるだけ早く立ち上げて、自分たちの地域で行う大会なんだという意識を地域にそれぞれが持っていただいて、そして準備を進めていただくということも重要なのではないかとということで、実行委員会として働きかけをさせていただきますので、またよろしくご協力をお願い申し上げたいと思います。

お手元に資料をお配りしてと思います。こんなところでお願いを申し上げるのは恐縮ではありますが、関西ワールドマスターズゲームズ組織委員会のスポンサーになっていただいているわけでありますけれども、この第1期のスポンサー契約が今年いっぱい、12月31日までとなっております、来年1月1日以降のスポンサー募集を秋口から始めさせていただきますので、ぜひご協力のほど、引き続きお願いをさせていただきますのでよろしくお願いいたします。パートナー企業様の募集という1枚紙を入れさせていただきますので、ご参照いただけたらと思います。追って委員会の方から各企業にご相談に回らせていただきますので、一声、積極的に協力してやってくれということを皆様からかけておいていただきますれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

また、真鍋副会長から地方分権についての状況と今後の取り組みについて力強い申し出、提言を頂戴いたしました。私どもも認識はまさにそのとおりでございまして、国の出先機関の丸ごと移管ということをご提案して、もうちょっとのところまでこぎつ

けたのでありますが、残念なことに頓挫をしてしまいました。それ以降、国の地方分権の対応の仕方が1つずつの事務を、提言を受けて、その事務を地方へ移管ができるかできないかというやり方になってしまいましたので、大きな大括りの事務をよこすとか、大きく今、国がやってることを地方に委ねるとかいうアプローチになっておりませんので、もう一度大きな見地からの国と地方との役割分担の見直しということを進めていくことが必要なのではないかということで提言をさせていただいているものでございます。

今後の進め方につきましては、やはり地方分権が進めば住民レベルでこんなメリットが出てくるということをしかりと国民レベルで理解していただくようなアプローチも必要なのではないかという意味も込めまして、さらに努力をしていきたいと思っています。具体的な提案になると、また個別事務の移譲の問題になりますし、アプローチの仕方が大変難しいのであります。そのような意味で、もう広域連合も7年目に入りましたので、今後の広域連合の方向づけということも含めまして広域行政のあり方研究会を発足させて、そこで従来提言がありましたような道州制も含めまして、広域行政のあり方について諸外国の制度も十分に参酌しながら議論を進めたいと考えております。ぜひ、メンバーにご推薦をお願いしておりますので、どうぞご協力とご指導、お願い申し上げたいと存じます。

また、八木副会長のほうからリニアと北陸新幹線の推進について具体的な対応についてのご提言も頂戴しました。私どもも北陸新幹線につきましては、もう既に金沢まで開通しており、あと福井、敦賀まではもう工事期間をどう短縮するかという課題でありまして、実際問題、関西がこれからのメーンの役割を果たしていかなくてはなりません。そのような意味で関西としての取り組みをさらに強化していく必要があると考えております。

また、リニアにつきましても、早く環境アセスなどを進めていくためにも路線を決めてもらわないといけないわけではありますが、それらも含めまして促進方、財界の皆

様ともども、我々も国に対してのアプローチを進めていきたいと思っております。

その際に、副会長から提言がありましたような、名古屋までの新幹線、失礼しました、財投を活用した新しい融資制度が国のほうから示されて動き始めようとしてるわけでありましてけれども、これをベースにさらに短縮することができないのかということについても、具体的な手法などなり有効な手段があるようならば提案していけるような、そのような検討も進めていく必要があるのではないか、このように考えているものでございます。

総括して、私の方から現状の考え方をお答えさせていただきました。

○関西経済連合会専務理事（関総一郎） ありがとうございました。

それでは、これから意見交換に入りたいと存じます。まず、関西広域連合の皆様からコメントをいただけますでしょうか。松井知事、よろしく願いいたします。

○委員（松井一郎） どうも、松井でございます。

まず初めに、去る7月26日に大阪で開催されました万博議連の総会とセミナーでは、お忙しい中、松本会長はじめ、役員各会員企業の皆さん、多数ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。おかげをもちまして盛大に開催することができ、万博誘致にかける地元大阪、関西の熱意を全国に発信することができたと、そう思っております。

また、関西経済連合会におかれましては会員企業の拡大と企業への働きかけにご尽力をいただき、甲子園球場での大画面でのPR映像を放映されるなど、万博誘致の広報活動に取り組んでいただいております。大阪、関西での機運が徐々に盛り上がりを見せており、重ねてお礼を申し上げます。

それでは、大竹副会長からいただきました貴重なご提案などに対しまして回答をさせていただきます。

万博誘致につきましては誘致委員会事務局と関西広域連合が一体となって活動内容を検討し、効果的な取り組みを展開しているところであります。国内機運の醸成につ

きましては、誘致ロゴマークを使ったチラシの配布やポスターの掲示を庁舎内や集客イベントで実施するほか、懸垂幕や街頭バナーによるPRを行い、幅広い方々に万博誘致の理解を促進しているところです。また、関西広域連合の構成府県から各市町村に誘致委員会の加入を呼びかけ、オールジャパン体制の一層の強化にも努めております。

海外向けのプロモーションにつきましては、海外訪問や海外要人の受け入れ時に英語版のPRパンフレットを用いて万博誘致への理解を求めるとともに、BIE加盟国の首相や姉妹提携をしている外国州政府のトップに信書を送付いたしました。日本での開催の支持、周辺諸国への働きかけについて協力を要請してまいります。

万博誘致の個人賛同者について言えば、例えば関西広域連合の構成府県市の職員が誘致委員会の個人会員になることで増やすこともできます。これは声かけが非常に重要でありまして。今、個人賛同者におきましては、まだ数千名、4,000少しだったと思いますけど、構成府県市、職員、何万人とおるわけですから、まだ行き届いていないのかなど。実のところ、私の秘書も昨日の時点までまだ入ってませんでして、昨日その話をして、昨日入っていただいたと。これ、強制はできませんが、そういう声かけによって個人賛同者を増やすことができると。広域、関西経済連合会の各企業の皆さん、社員の皆さんにもお声がけをぜひよろしくお願いいたします。

また、大竹副会長から咲洲庁舎でも意見交換会、夢洲の現地見学のご提案をいただきました。関経連の松本会長はじめ、役員の方々には本年7月11日に経団連とともに夢洲の視察をいただいておりますが、さまざまな機会を通じて現地をご覧いただくことが重要であります。ご提案の趣旨を踏まえ、実施に向けて具体的な調整を進めてまいります。

2025年の万博誘致ではフランス、ロシア、アゼルバイジャン、この3カ国と熾烈な競争を勝ち抜かなければなりません。それにはオールジャパン、BIEの加盟国の日本支持を取りつける必要があります。関経連と会員企業の皆さんには企業のブランド

力を存分に発揮をいただきまして、国内の機運醸成はもとより、諸外国とのチャンネルを使って加盟国へのプロモーション活動を積極的に展開いただくようお願いをいたします。

最後に先日の7月31日、文化庁から百舌鳥・古市古墳群が世界文化遺産の推薦候補に決定したと、うれしい報告を受けました。ひとえに皆さんのおかげでありまして、この場をおかりいたしまして、お礼を申し上げます。ただ、推薦候補は最初の第一歩であります。平成31年度、百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録のためには、さらなる機運醸成などの活動が必要でありまして、この場におられる関経連はじめ、皆さんに引き続きご協力をお願いいたしまして回答とさせていただきます。

○関西経済連合会専務理事（関総一郎） ありがとうございました。

ただいま、万博の話、ご発言ございましたが、吉村市長、ご発言いただけますでしょうか。

○委員（吉村洋文） 大阪市長、吉村です。

先ほど、大竹副会長から万博の取り組みについてご紹介をいただきました。とりわけ2つあると思っています。

1つは、やはり国内の機運醸成。もう1つは、これは選挙ですのでB I Eへの働きかけと海外プロモーション。大きくはこの2つがあると思っています。

その中で、この国内の機運醸成についてですが、これは大竹副会長からもありましたとおり、様々なご協力をいただいているところであります。また、真鍋副会長も参画されておられますが、梅田のエリアでJ R、阪急、阪神、グランフロントが梅田地区エリアマネジメント実践連絡会を形成されておられます。その梅田のエリアにおいて一体的にデジタルサイネージなんかを使って万博誘致の機運醸成をしようということで、今、取り組んでいただいております。梅田、大阪駅のエリアは毎日200万人以上が乗り降りしますので、これは非常に大きな効果があると思っています。経済界の皆さんにこういったご協力をいただいていることを、まずこの場をかりて感謝申し上げ

げたいと思います。

大阪市としては、これはもちろん自ら汗をかかなければいけませんので、メイン通りであります御堂筋でのバナー掲示を、もう既に始めております。それから市営地下鉄で、デジタルサイネージをやったりポスターの掲示、これをやっていく。それから車両は1,300車両ありますので、これについても全て万博のロゴマークもつけていこうと。市営バスについても同じであります。区役所の待合室なんかでも、B I Eのプロモーションビデオを何回も流すとか、様々な、市内における機運醸成を今、進めていっているところです。また市役所、区役所の職員に、今日は僕も着ているんですけど、万博のポロシャツを着てもらって、まさに市民に近いところでの誘致活動、国内の機運醸成をこれからも進めてまいりたいと思います。

それから7月11日には全国の指定都市の市長会におきましても、応援の決議をいただきました。全国的な機運醸成にも努めていきたいと思っています。今後、地元自治体として、より一層汗をかいていこうと思いますので、ぜひ経済界の皆さんも国内の機運醸成にお力を貸していただきたいと思います。

それから海外プロモーションについてですが、これは地元自治体として松井知事とも役割分担をしながら、今、積極的に行っているところです。会長からアスタナのジャパンデーにご参加いただいたという話がありましたが、私はアスタナの開幕式に参加させていただきまして、そこでプロモーションを行ってきたところでもあります。

それから今月末にはアフリカで国際会議が行われますので、そこにも行きまして、万博のプロモーション、それから大阪、関西のPRを積極的にやってまいりたいと思います。

それから大阪市は姉妹都市でありますミラノ、上海市に訪問しまして、ミラノ、上海でも万博をやった実績がありますので、そこでの情報共有や誘致の働きかけを積極的に行っているところでもあります。

経済界の皆さんは世界に支店や企業関係、取引先等、様々お持ちと思いますが、そ

ういった点も通じて、ぜひ世界的な、いわゆる海外プロモーションもぜひご協力をお願いしたいと思います。

いずれにいたしましても、関経連さんや広域連合と協力しながら国内の機運醸成、それから海外のプロモーションを積極的にやっていきたいと思いますので、今後ともご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

○関西経済連合会専務理事（関総一郎） ありがとうございました。

万博誘致につきまして、その他、皆様から何かコメントございましたらお願いしたいと存じます。

○関西経済連合会会長（松本正義） この前、世耕大臣と松井知事と私で行って説明をしますと、開発国と言ったらおかしいんだけども、そういうところは、やっぱり日本全体が一体となってやっているとこの雰囲気非常に重要であろうというのを感じました。特に我々実業界からついていくということは、やっぱり開発国の投資というのは向こうが頭の1つ目にあって、いろいろ一生懸命説明して、松本さん、どうですか、国に投資しませんかという話になってくる。投資するといったって金もうけができなかったら、そんなん投資なんかできませんわねという話なんです、PR効果としてはやはり国と自治体と経済界が一緒になって海外にお願いしに行ってるという雰囲気はよかったなという感じがしてます。

国内の雰囲気の醸成とって、やっぱり金がかかるんですね。なかなか難しいです、誘致委員会の中の予算をどうするかということも。ポスター1つをつくるにしても、いろいろな人をお願いしてするにしても、やっぱりただやってくださいというわけにもいきませんので、このあたり、私一体どうしたらいいのかなと。予算の関係がはっきりわからないままに気が焦ってポスターつくって、ワーってつくっていくと。何でもいから先行してやれやという話になるんですが、やっぱりこのあたりも。特にそれと関西は一生懸命やってるんだけど、関東のほうはどう思ってるんだというので、ちょっとひっかかる場所があるんです。まあ、どうせ関西でやらんといかんと思っ

てますけど、やっぱり国家事業ですから、ナショナルイベントであるという認識が我々にあって。東京へ行ってあんなポスターはもちろん張ってないよね。どうしたらいいかな。これからだと思っんですけども。

あと、あんまり日がないんですよ。来年の11月になったら全部決まっちゃうわけで、それで1月にミッションが来て、特に大阪を見ていくわけでしょうから、もちろん大阪が一生懸命やらんといけないけど、やっぱりナショナルイベントとして。だから、それは松井知事と吉村さん必死になってやってるわけで、我々も一生懸命サポートするというには変わらないんですけど。今ちょっと私、頭をかすめるのはそういうところですね。

○関西経済連合会副会長（大坪清） 私、関経連の副会長と同時に、関経連の関連組織である太平洋人材交流センター、PREXというのがありまして、この会長もずっとやっているんです。ここで東南アジアを中心に海外から、これは1990年にできた組織ですので、そこでいろいろ教育した人々が国へ戻って相当偉くなってる人が多くて、今1万7,000人ぐらいおるわけです。その1万7,000人の中で今回の万博をプロモーションするに当たってネゴできる人間を探せと言って、今、探させて本格的にこの万博のプロモーションをやろうかなと思っております、関専務と、それからPREXの岡本という専務理事と、それから私、実は関西生産性本部の会長もやっております、これ終わったらすぐ四国へ行って、西日本生産性大会を今日やってるわけですよ、今日と明日と。そこで挨拶せないかんわけですけども。その生産性本部に対しても万博のプロモーションをやろうと思っております。

といいますのは、万博に向かってやることによって、関西圏のいわゆるサービス産業の生産性というのが非常に低いと思っておりますので、このサービス産業の生産性を向上させるための1つの大きなインセンティブになるのはこの万博だと思っております。そういう意味からも、生産性本部の活用ということも考えております。

生産性本部の構成組織は、学、それから労使のユニークな三者構成ということにな

っております。特に労働組合に結構入ってもらってますので、この辺のところよくお考えいただいて、その3つの組織を活用して万博プロモーションをやっていこうと思っておりますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。

○関西経済連合会専務理事（関総一郎） ありがとうございました。

広域連合の皆様から、どなたか、もしご発言ございましたらいかがでございましょうか。お願いいたします。

○委員（松井一郎） 松本会長が今、非常にご心配になってるところも僕もわかるんですけど。先日、経団連の会合にも私がお伺いをいたしまして、松本会長もあのとき一緒にさせていただきましたよね。ちょっとこんなところで言うのもあれなんですけど、やっぱり関西と熱はちょっと、それは温度差、濃淡あると思うので、これから、もうありとあらゆるパイプを使って、ぜひ日本全国の各そういう企業の皆さんにも熱い思いを持っていただけるように努力をしたい。

政府に対しましては、今、世耕大臣はすごくやる気になっていただいておりますし。まあ、もともと和歌山が選挙区ですし。今回、改造内閣で、よもやあったらいかなと思いましたが、そのまま留任ですので、世耕大臣を中心として政府にもう少し熱くなっていけるように、熱を入れていただけるように我々もさまざまな努力をしたい、こう思ってます。

○関西経済連合会専務理事（関総一郎） ありがとうございました。お願いいたします。

○委員（吉村洋文） 全国的な広がりをつくっていくためにどうしたらいいかと考えた時に、僕はやっぱり近いところから波状に広がっていくのがいいと思ってます。ですので、まずは当然、大阪市、大阪府が1番の開催地になりますので、まず大阪市、大阪府が当然1番汗をかかなければいけない。そこからどんどん広がっていく、関西全域に広がり、そこから全国に広がっていく、まさに全国の人から見たら関西が盛り上がってないのに何でやらなきゃいけないのって、なると思います。もちろん国家プ

プロジェクトですけど、ただ、やっぱりここは大阪、関西、一致団結して、まずは我々自身が当事者として汗をかいていくという強い思いを持ってやっていく中で、全国的にもこの広がりというのは広がっていくと思います。先ほど松井知事から発言があったように、政府に対しての働きかけは、当然行っていくこととなりますけども、経済界においても、ぜひお願いしたいと思います。

○関西経済連合会専務理事（関総一郎） お願いいたします。

○関西経済連合会会長（松本正義） 大阪に本店のある大会社というのは、万博を大阪でやるというのはわかってる、会社は。東京に本社がある会社というのは、そこまで熱を出さない。これは非常に大きないろんな問題、僕はよくわかりましたよ。やっぱり本社を大阪に持ってこんといかんっていつも言ってるんだけど、この件についてはいろいろ絡んでるんですよ。住友電工だったら、言うたら二十何万人おるといったらみんな会員になりますと言いますよ。これは東京に本社があったら、何を言うてんねやという感じですよ。そういうこともある。だから一生懸命やるにも日がなくなってきたんですよ。誘致なかったら、これ何言ったって終わりでしょう、ということでは我々もいろいろ話しするときは、何か時間なくなってきたって言うわけね。今回も万博というのは1つのテーマになってるなど、えらいこっちゃなというふうに思ったりしててね。ちょっと余談だけど、すごい微妙なところはある。変なコメントで申しわけありません。

○委員（山田啓二） 今、知事会長もしているので、その点からも述べたいと思うが、先日、松井知事にも来ていただき、全国知事会でも万博誘致の決議をいたしまして、これから盛り上げていかなければいけない。これから盛り上げていくというときに、やはり盛り上げていく過程をつくらなければいけないと思います。オリンピックのほうがいよいよ聖火の話が出てまいりまして、これも全国知事会に話があり、そしてフラッグイベントも今、東京を中心に各府県を回り始めた。そうした点では、東京オリンピック・パラリンピックは、日本全体で取り組んでいくという過程づくり、プ

ロセスづくりが進んできている。その点で、これからやはり万博についても、来年もまだ決まってないところもありますが、そこに向かって進んでいかなければいけないと思います。

私ども全国知事会のほうも、今年の秋には日韓知事会議があって、そのときは大統領のところに行くと思いますので、そうした点をしっかりとつくり上げていかなければならないと思います。

ちょっとそこから話がずれるかもしれませんが、全体のことを申し上げますと、1970年の大阪万博のときは6,400万人入場者がありました。6,400万人あった1970年の大阪万博のときに外国人がどれだけ来たか。実はこのときには、史上最高の外国人の伸び率を示しました。40%訪日外国人伸びました。では何人だったかというところ、85万人です。多分、オリンピックのときは、目指しているのは4,000万人。それからすると、本当に4,000万人を超えるぐらい来るでしょう。大阪万博は85万人。今度は4,000万人。全然、大阪万博の例は参考にならないです。そうした形で受け入れ態勢とか、我々がそれに対する対応ができていっているのかどうか。今回はさきほどありましたようにスポーツの関係もあります。こうした点でもっとやはり関西が一丸となっていく戦略を早目につくっていく必要があると思います。

今日カンタス航空がいよいよシドニー直行便を出してくれることになりました。関経連の皆さんは、ニュージーランドはチャーター便で行きましたので不便さがわからなかったと思いますが、私ども関空から通常便で乗って行きましたので、とてつもない時間がかかってしまいました。それからいっても、そうした一つ一つの受け入れ態勢、対応というのをつくり上げていかなければいけない。

さらにはインフラについても北陸新幹線、リニア、新名神とありますが、これを有機的に連結していく体制が整っているのか。では、リニアと北陸新幹線はどこで交差するのか。今度、なにわ新線の話もありますが、それとどういう形で結びつけて、関西全体で関空とのアクセスを改善していくのか。または南北の問題どうするのか。

先ほどワンパスの話がありましたけれども、真鍋副会長の前で言うのも何ですけども、ICカードを関西で使えない地域はいっぱいあります。ワンパスといっても、本当に受け入れの態勢ができるのか。Wi-Fiも一緒です。

そうした総合的な戦略というものを関西で早くつくっていかないといけない。関西広域連合ができて7年でようやく、本当にいろいろな動きが出てきて、ワールドマスターズも万博も、そして文化庁の移転も北陸新幹線もリニアも、IRも出てきた。やはり総合的な関西戦略を早くつくらなければ。IRもそうだと思うんですけどね。マカオは人口65万人ぐらい、シンガポールでも500万人ちょっとの人口です。ラスベガスはロサンゼルスから飛行機で行かなければいけないぐらい遠いが、関西にIRができれば、2,000万人が即行ける。関西全体で力を合わせればIRの成功は、確実だと思ってますし、そうでなければIRも非常に地味なものになってしまうと思いますので、そういう関西一丸の戦略というものを早くつくっていく必要があって、それを広げていくことがまた万博誘致においても大きなみんなの参加感になるのではないかなと感じます。

○関西経済連合会専務理事（関総一郎） ありがとうございました。

万博も含めまして、またその他、スポーツとか広域行政、インフラのお話もございました。そういうことも含めて、またこれからご意見賜ればと存じます。平井知事、いかがでございましょうか。

○委員（平井伸治） 「難波津に咲くやこの花冬ごもり今を春べと咲くやこの花」このたび、百舌鳥・古市が世界遺産の候補に選ばれたところであります。考えてみますと、今この関西が3つのことで向き合っていると思うんですね。この万博がまず第一番。それからワールドマスターズゲームズ、そして世界遺産。これら全部世界に向けて発信をし説得していくものであります。ですから、こういうものを有機的に結びつけて、もう経済界の方々も大変な力あります。我々、海外に行くとよくわかるんですが、私ら首長の言うことよりも企業のトップのリーダーが言うことは非常に影響力が

あるんですね。それはやはり日本という経済力がある、そのバックボーンがあるからだと思います。

また、我々も我々で、例えば先般の三日月さんと一緒に全米知事会に行きまして、この万博のことも含めてチラシをまいたりということもさせていただきました。我々は我々のパイプもある。先ほど労働組合の話があったり、いろんな意味でのパイプを生かして一気に成じないと多分難しくなってしまうと思うんです。先ほど松本会長がおっしゃるように、時間がどんどんなくなってしまう。だからこそ、今、追い込むようにいろんなパイプを通じて我々が集中的にやっていくべきだと思うんですね。

そういう意味で何かストーリー、セールストークってあるじゃないですか。品物であれば売り込むときのセールストークなりキャッチフレーズなり。それをもっとみんなまで共有して持って歩かんといかんと思うんですね。大阪でやると、おお、そうかとなるようなやつをぜひ考える必要があるんじゃないかなと思います。その辺を我々で認識を共有して、この夏から秋、これで大体全て決まってしまう時期になりますので、この3つのことを束ねてやっていくようなセールスグッズを持って歩いてはどうかと思います。

○関西経済連合会専務理事（関総一郎） ありがとうございます。

三日月知事。

○委員（三日月大造） ありがとうございます。関西広域連合で環境保全を担当しています、滋賀県知事の三日月です。

関西の強みの1つは、やはり豊かな自然環境だと思ってますし、グローバル企業や先進企業が生産活動や経済活動を環境保全と両立させながらこれを進められているということは誇りでもありますし、こういうものをこれからはより大事にすると同時にしっかりとPRしていくこと、アピールしていくことが大事じゃないかなと思います。

先般も来日、来阪されましたベトナムのフック首相は、例えば関西1,450万人の命

の水源、琵琶湖を守りながらの農業だとかグローバル企業の生産活動にいたく興味を示されて、個別に会談していただき、いろんな話をさせていただく機会をいただいたんですけども。こういうことを、例えば2021のワールドマスターズゲームズもそうですし、もちろん万博の場合は短期決戦ですので、より効果的なPRをする必要があると思うんですが、関西から発信していくということが、ひいてはその後の関西の発展につながっていくのではないかなと考えています。

さらにスポーツ振興の面で言えば、ワールドマスターズゲームズ2021は、アジア初の開催、第10回目という開催、広域開催ということからすれば、先ほど来、各皆さんがおっしゃってるように、やはり多言語の案内対応、また広域の移動、交通対応が欠かせないと思いますので、この準備をぜひ経済界と我々自治体、広域連合、連携して進めてまいりたいと思ってます。

多言語での対応ということと言うと、どうしてもマンパワーの通訳をイメージしがちなんですけども、やはりICTを活用した多言語対応ということは今後もやはり大きな可能性だと思いますし、ぜひ皆様方の最先端の取り組みをお願いしたいなと思うと同時に、滋賀県では、例えばビワイチのサイクリングを最近PRしてるんですけども、一昨年が5万人、去年は7万人、今年は10万人を超えるんじゃないかという勢いで、今、来県者が増えています。そうしますと、やはりいろんな世界的な自転車ショップの出店も出てきておりますので、単に来て走って終わりではなくて、経済効果に結びつけていくような体験型スポーツツーリズムを一緒に構築していけたらいいなと思ってます。

以上です。

○関西経済連合会専務理事（関総一郎） 竹山市長、お願いいたします。

○委員（竹山修身） 百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産国内推薦候補決定につきまして、皆さん方からは本当に温かいご支援いただきうれしく思います。そして2年後、必ずユネスコで登録させたいと思います。これは2021年の話になると思います。

これこそまさに関西が万博を呼び込むためには、歴史や文化が非常に優れている日本で有数のところであるということを示さなければならないとっております。私どもといたしましても、百舌鳥・古市古墳群の見せ方が大事でございまして、がっかり遺産になったらあかんと思っております。そういう意味で、バーチャルリアリティーで300メートル上から見えるようなゴーグルを開発して（古墳群を）見てもらうとか、いろいろ、歴史文化を体感してもらう、そしてW i - F i を完備するとか、そうして外国の方に、ここをしっかりと歴史文化の里であるということ、それと美の伝説と一緒にあって関西をぐるっと回ってもらう、こういうことを売り込むことがまず万博の成功にも必要不可欠ではないかと思っております。

そういう意味で私はこれから皆様方のお知恵、そしてお力をかりてユネスコの登録、しっかりと進めていきたいと思っておりますので、大阪府さんと3市が一体となって頑張りたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

以上です。

○関西経済連合会専務理事（関総一郎） ありがとうございます。

ここで松井知事と吉村市長におかれましては、ご公務のご予定でご退席と伺っております。どうもありがとうございます。

また、引き続き意見交換を続けさせていただきたいと存じますが、松下副会長よろしくお願ひします。

○関西経済連合会副会長（松下正幸） 関経連で国際担当をいたしております松下でございます。

私もこの会議、何回か出させていただいておりますが、これまでは余り国際関係のことが話題になることがなかったんですけれども、今日はそれぞれの参加者の方から国際に関係のある話題がたくさん出てございまして、大変うれしく思っております。私なりに少しご報告とお願ひをしておきたいと思っております。

まず、万博誘致につきましては関経連として中国訪問団を7月10日の週に出しまし

て、中日友好協会の唐家璇さん、それから中国政府の商務部、外交部の方にもこの万博、日本立候補してるので応援してくださいということを申し上げておきました。

それからスポーツ振興ですけれども、ゴールデン・スポーツイヤーズということで国際的なイベントが連続して行われるということでございますけれども、このスポーツ振興の中でトップアスリートの育成ということもやっていこうということで計画されてますけれども、このトップアスリートというのは国内におけるトップアスリートなのか、世界におけるトップアスリートなのか。やはり希望は大きく持って世界における世界のトップアスリートを育成すると、こういうふうにぜひやっていただきたいなと思っております。

それから広域インフラについてでございますけれども、これまで広域インフラの充実という話になりますと、基本的に関西の各地域、都市と東京をいかに便利にするかと、物や人の動きをいかに便利にするかと、そういう議論しかなかったと思うんですね。今日の議論を聞いておりますと、山田知事もおっしゃっておいりましたように、外国の方をどうやって関西の各都市まで引っ張ってくるかと、こういうためのインフラはいかにあるべきかと、こういう視点、非常に重要なところだと思うんですね。日本の人口は減っていきます。外国からのお客様がどんどん増えていきます。そうすると外国との結びつきが日本の関西の各都市の活動にも非常に大きな役割を演ずると思いますので、ぜひ広域インフラという場合に、東京との結びつきを便利にするという視点だけじゃなくて、海外のお客様をいかに地方まで引っ張っていくかということをお考えいただきたいと思います。

以上です。

○関西経済連合会専務理事（関総一郎） ありがとうございました。

先ほど連合長から女性活躍推進のお話もございましたが、これに関連しまして牧野副会長いかがでございますでしょうか。

○関西経済連合会副会長（牧野明次） 関経連で労働政策を担当しております牧野

でございます。

本日の議題につきましては、万博誘致、そしてスポーツ振興、広域行政・広域インフラ、この3つをテーマといたしまして本当に有意義な意見交換をされてるわけですが、いずれのテーマにつきましても関西の持続的成長であるとか、あるいは活性化の促進、いずれを取りましても目的は同じだと思っております。そこで少し観点が異なりますけれども、私が担当しております労働政策の側面から一言申し上げたいと思います。

最近の雇用情勢、これにつきましては失業率が3%前後となっております、いわば完全雇用と言ってもいい状況になっております。堅調な雇用環境が継続してるわけでございます。企業につきましては好業績を続けまして、設備投資につきましても旺盛な状況にあるわけでありまして、足元で申し上げますと労働需給そのものはタイト化をいたしております。中小企業を中心にいたしまして人手不足の状況が深刻な状況にあると思っております。それに加えまして少子高齢化、これを迎えましたこの日本にとりましては、経済成長の源泉でございます労働人口の減少と申し上げますのは極めて大きな問題ではないかと思っております。

こういった中で我々関経連といたしましては優秀な人材の確保、その定着、そしてまた生産性の維持であるとか向上、これを図りますために女性を含めます多様な人材が能力を発揮できる環境整備に取り組んでる状況でございます。しかしながら、経済界だけでは十分にカバーできるということは限度がございます、これは官民一体でもって取り組むことが大変重要なことではないかと思っております。

先ほど井戸連合長さんのほうからご挨拶もありましたけども、今後、女性の活躍推進会議、これが設置される。内閣府におかれましても参画を検討されると、我々お伺いをいたしておるわけでありまして、これを機に女性活用のために広域連合、そして関西経済連合会、これが連携をしっかりと強めさせていただいて、オール関西、そしてオールジャパン、その体制づくりにつなげていけたらと思うわけでございます。ぜ

ひ、より一層のご協力をお願い申し上げまして、本日の議題と少し観点が違いますが、そういう意味で発言をさせていただきたい。

私は以上でございます。よろしくお願ひいたします。

○関西経済連合会専務理事（関総一郎） ありがとうございます。

先ほど、松下副会長から国際的なインバウンドの観点からのインフラの話もございましたけど、その点につきましてございましたら、井戸連合長。

○関西広域連合長（井戸敏三） 本来ですと鳥居さんから話をしてもらったほうがいいのかもしれないんですが、神戸空港のコンセッションの進捗が進んでまいりまして、それこそ10月でしたか11月に本契約を結ばれて、来年の4月1日からは民間運営される。しかもそのコンセッションの相手は今の関西エアポートの子会社が受けられる方向ですので、そうすると実質的に伊丹も関空も神戸空港も1つの会社が運営管理をするということになります。そういう状況が新しく出てきておりますので、これを機会に松下副会長のお話ではありませんが、どういう形で関西のインバウンドの受け入れ態勢なり、あるいはここを基地にして外へ出ていくというような対応が望ましいのかということ、いつまでも平成19年につくりました3空港懇談会の基本方向ばかりに従っているわけにはいかない状況が出てきておりますので、そのような意味で、国自身も地元で方向づけをしてくれたら提言を受けるぞというのが基本姿勢でおられるようですので、ぜひこのイニシアティブは私どもと、それから関経連とでとっていかなくちゃいけないんじゃないかと思っておりますので、松本会長のご尽力をいただいて3空港懇談会の再開をぜひ進めていただけましたらありがたいなと思っておりますので、この内容をあえてさせていただきました。

ちょっと鳥居さんのほうから神戸空港についての経過を説明させていただいた上で、会長よろしくお願ひいたします。

○副委員（鳥居聡） 済みません。じゃあ、ご指名ですので。

現在の進捗の状況でございますが、優先交渉権者としてはORIX・VINCI Airports・関

西エアポートコンソーシアムが提案していただきまして、我々の方として優先交渉権者を選定したと、そういう段階でございます。

提案の内容につきましてはいろいろと報道等にごさいましたので、皆さんご存じだと思いますけども、運営権対価191億4,000万円とか、あといろんな形で出ておりまして、関西エアポートの100%子会社のSPCをつくってそこが運営すると、そういうご提案でごさいました。あと、神戸空港の活性化とか設備につきましても、伊丹や関空との連携の中でいろいろ取り組んでいくという今ご提案をいただいているところでございます。

我々としては、この中身をさらに詰めますとともに、10月ぐらいに実施契約を締結させていただきたいという形で今、手続を進めたいと考えてございます。SPCつくっていただいてそこと契約してまいりますので、その後ですね、実際に事業の引き継ぎということをしていかないといけません。4月1日からの一応運営開始ということでございますので、それに向けまして速やかにスムーズにこの移行がいくように、まずは努力させていただいて、そしてSPCによります運営が安全かつ確実にできるように、まずは神戸市としてはその点を重点として注力をさせていただきたいと考えているところでございます。

以上です。

○関西経済連合会会長（松本正義） 私も関経連の会長になって2カ月でありまして、余り引き継ぎも受けてないんですけども。したがって公式見解というよりも、今のところ関経連の中のそういう部署があって、今日、朝もいろいろまとめたものを説明受けてます。それで私自身が、まだこれ私の意見なんですけども、規制緩和は全然問題ないと、やったらいいじゃないですかと。しかし、限られた空間の中でどこまでやるんだと、セーフティーズプライオリティですよ。セーフティーズプライオリティというベースで、時間軸で規制緩和をやる必要があるのではないのかと。ところが2010年の下妻さんがおったころ、いろいろ反対があって合意にならなかったと、それ

以降全然やってないと。今回その状況が、井戸連合長が言われたように状況が変わってますよねと。関西エアポート株式会社がコンセッションで一体のマネジメントラインを持っていると。これは民間の会社なんですよ。2010年とか、それ以前のお話というのは、官の話だったと。それは非常に広域的な問題があるのでそうだと思うんですけども、今度この話は、私は関経連に言ってるのは早く開いたほうがいいんじゃないのかと。ただ、まだはっきりわかってない状況で来年の4月からやるということと、それから関西エアポートの経験は1年ぐらいしかないんだろうなと。ヴァンシがいて、ヴァンシは物すごい経験を持ってて、いろいろ言ってるんだと思うんだけど、そういう中でいつやるのがいいのか。原則はやっぱりきちっと決めといたほうがいいんじゃないかと、原則というか、まずセーフティーズプライオリティだと、規制緩和はオーケーだと、時間軸で考えましょうということです。

規制緩和の中に時間帯とか国内線、国際線の話、それから金持ちが持ってくるマイジェットの話というようなこともいろいろあるので、そのあたりは専門家のセーフティーズプライオリティというのをベースにやっていったらいいんじゃないかと。突然、みんな規制緩和だと言うと、まあ、そういうことは民間の会社はやりませんわ。アセットでいかに、100%利益を上げるかということが民間の会社だとしたら、ちょっと前とは違うんじゃないかと。きちっと原則論をやってオーケーだったら、それを具体的にビジネスプランとして関西エアポートがきちっと物を持ってこないといけないんだと私は思ってます。

さっき関さんに、これはこういうことだからちょっと資料をまとめてほしいと。井戸さんのところ僕が直接行って2時間ぐらい話しするわと、今朝、話ししたんです。というふうなことなので、私は何も規制緩和は反対しておりませんが、やっぱり原則論として何でもいいやというのは困ると。まず第一は、事故起こしたらえらいことやから、セーフティーズプライオリティだと、そういう範囲内で民間が入っている。民間の目的は、持ってるアセットを最大に使って最大の利益を上げることであるとい

うことで、真剣に彼らは考えるはずですよ。それも時間軸で。2020年に、関西に来る外国人が1,800万人だと。2030年だったら全国6,000万人のうち関西は45%だという話になってくると、やっぱり何らかの定量的なものがないと、規制緩和というのは時間軸で考えられないじゃないかなと思ったりしている。これは私の個人の意見で、こんなところで個人の意見を言うなど言われるかもしれませんが、こういうことでございます。

○関西経済連合会専務理事（関総一郎）　また改めて2時間ほど、お時間ちょっと調整させます。

○関西広域連合長（井戸敏三）　広域の利用の問題かなり安全性は確保できるはずなんです。これは私が30年前、運輸省航空局の環境整備課長がやってたときの経験で。3空港ができるので、空域管理は、管制は一元化したんですよ。各空港に任せないことにしたんです。関空に本部がありまして、そこで全部さばってるんです。ですから、おっしゃるように無限大ではありませんから、さばく限度はあるはずですが、そういう意味からするとあんまり心配は、相当ふえたからといってないのではないかなと思ってます。

さらにもう一つ言うと、関空の離発着、大阪の上飛んでないんですよ。大阪の上。ですから、あれも大阪の上を飛ばせるようにすれば、さらに関空の処理能力上がるんです。そういう積み残しの宿題も結構ありますので、この機会にある意味で一度俎上に上げて将来方向をきっちり決めていくということが大事なんじゃないかな、そういうふうに思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○関西経済連合会専務理事（関総一郎）　ありがとうございました。

その他も含めまして何かご発言等ございましたらお願いいたします。柏原副会長、何かもしございましたらお願いいたします。

○関西経済連合会副会長（柏原康夫）　せっかく寄せてもらいまして、何も言わんで帰ったら叱られますので申し上げますけど。

さっき、三日月知事がおっしゃってました多言語の問題は、今、私は、けいはんな学研都市の担当をさせていただいてますが、あそこで多言語の研究進んでおりまして、今、実証研究がいろいろなところで始まってます。京都でも嵐山を中心に観光の実証的な研究が始まってます。Voice Traというソフトですけど、これただでダウンロードできますので、ぜひ皆さんダウンロードして、得意な方はいいですけど、中国人でも韓国人でもその言葉で会話ができますので、Voice Traというソフトをぜひダウンロードしていただきまして活用いただけたらと思います。まだ完全ではありませんのでいろいろありますが、自分でしゃべったことがちゃんと伝わってるかどうかということも、もう一遍返ってきますので、間違っただけで伝わってたら言い直せばいいわけですね。優れものと言っていいかなと思いますので、ぜひ使っていただきたい。そして観光と医療の現場でこれが使えるようにということで、オリンピックまでに全力を挙げてやっていますので、ぜひ使ってみていただきたいと思います。

それから万博の関係ですけど、いのち輝く未来社会のデザインというテーマになっておりますが、けいはんな学研都市では、医療に関しては非常に進んだ研究が行われてまして。レーザー光線というか、粒子線によってがん治療をするという、非常に小型化、兵庫県にありますSpring-8の2分の1ぐらいの規模にしようという研究が進んでいます。これが途中で血液を取らずに指だけで血糖値が測れるのが3年後ぐらいには実用化できないかというところまで来てます。2,000万人の糖尿病患者予備軍があるという中で、この研究をぜひ実現させていきたいと思っています。

それからもう一つATRという組織がありますけども、ここで脳の研究が進んでまして、脳の中にタウたんぱくが蓄積されると認知症とかアルツハイマー病になると言われてますけども、このタウたんぱくをレーザー光線で見ることができるよう顕微鏡を今、開発中でありまして、このタウたんぱくの蓄積というものをどういうふうにして除去するかという研究が進んでおります。実際、ATRではクリニックをつくってまして、鬱病とか精神系の患者さんを受け入れまして、この治療に当たっております。

す。治験的な要素でありますけども、そういう活動が学研では行われてます。

さらに理化学研究所が分室、i P S 研究施設を移してくれますので、このi P S 細胞を使って創薬の研究、それから治験体制をつくって治験を進めていくという、こういう活動が今、けいはんなではかなり進んでおります。

いのち輝く未来社会のデザインという、認知症の問題とかがんとか、これは今、1番、現代的な今日的なテーマだと思いますので、こういったものを万博が実現すれば、それに向かって開発を進めてもらいたいと、こういうふうをお願いをしています。国も非常に力入ってますけども、ぜひ広域連合の各知事さんにもご支援をいただけたらと思います。

以上でございます。

○関西経済連合会専務理事（関総一郎） ありがとうございます。

ほかに何かございますでしょうか。けいはんなの話が出ました。もし何かございましたら、けいはんな関係でほかにご発言ございましたでしょうか。よろしゅうございますか。

それでは、まだまだご意見もあるかとは存じますが、そろそろ予定の時間となってきました。最後のまとめといたしまして、双方の代表から一言頂戴いたしたいと存じます。

まず、井戸連合長からお願いを申し上げます。

○関西広域連合長（井戸敏三） 大変ホットな話題、特に万博の誘致、それからスポーツを通じた地域振興、そして広域行政の公務のあり方と広域インフラというホットな話題についての意見交換を行うことができました。共通認識を深めることができたのではないかと、このように思っております。

万博誘致につきましてはご指摘いただきましたように時間がどんどん経ってきておりますので、我々もこの9月議会を目指して、まずは議会で誘致決議をしていただくような運びをしていきたい。これを他の自治体にも取り組んでもらえるように働きか

けをしていきたいと考えております。自分のところやってないのにやってくれと言ってもなかなか聞いてくれませんので、そのような手順を追いたいなと思っています。ちなみに連合議会は8月議会で決議してもらうことになっております。

これを皮切りに、やはり機運を盛り上げていかなきゃいけないんだと思うんですが、山田知事会長が言いましたように、東京オリンピックは聖火リレーの前にフラッグでイベントをずっと各地やってきてるんですね。ああいう、フラッグでなくても何でもいいんですけど、万博誘致のチームをずっと各県回すとか、そういうことも考えないといけないのではないかなという感じもいたしております。

それともう一つは、非常に高邁な未来社会のデザインですが、何をしたいのかよくわからないんですね。だから、キャッチフレーズもなかなかできないという、これが実情なので、何をしたいのかということをもっと明確にコンセプトで言わなくちゃいけない。何と何と何を言ったらいいのか。私、原案にあった健康というのが非常にいいテーマなので、アフリカなどで説得していこうとしたときに、やはり健康をベースにした地域の環境対策みたいな話は非常にいい話ですし、あるいは上下水道の整備みたいなものまで結びつけられると、これ、日本の得意とする分野ですから、そういう具体的なアプローチができるような持っていき方をしていかないといけないのではないかな、こんなふうに思っております。そういう意味では時間がないからこそ逆に言いますと、それぞれ得意技のチームをつくって、そのチームがだっと動いていくみたいなことを考えないといけないのかな、こういうふうに思っております。

これ、ぜひ大阪市さんと大阪府さん、ぜひお願いをして。ともあれ、万博誘致は一生懸命やっていかなきゃいけない、このように思っています。

それからI Rについては、今日も政府に対して広域連合として提言をいたしました。積極的にやれという面と、それから留意してもらわなきゃいけない、青少年対策とか依存症対策とか、あるいはマネーロンダリング対策とか、こういうのはちゃんと体制をつくってもらわなきゃいけないという話と、できれば自治体にも一定の、例えば条

例なら条例で上乗せ規制ができるとか、そういうような権限も準備しておいていただいたらどうかという提言もいたしました。そういう提言を広域連合がやるということは、逆にしっかり進めるなら進めていこうという基本姿勢でございますので、ご理解を賜りましたらありがたいと思っております。

あと北陸新幹線とかリニアとか、あるいは山陰新幹線とか四国新幹線とか、いわゆる計画から整備にまだ上がっていないようなインフラもありますので、これらも含めて広域インフラ整備についての基本的な方向づけもしっかりしていかなきゃいけないと思っております。

いずれにしても関経連とはよく情報交換と協議をさせていただきながら進めてまいりますので、どうぞよろしくお願いを最後にいたしまして、またワールドマスターズゲームズ2021にはしっかり松本代表会長でもありますので、私もそうではありますが、どうぞスクラムを組んで準備を進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。本日は本当にありがとうございました。

○関西経済連合会専務理事（関総一郎） ありがとうございました。

続きまして松本会長よりお願いいたします。

○関西経済連合会会長（松本正義） 本日は本当にお暑い中、長時間にわたり、2時間ぐらいわたりまして、井戸連合長様、それから知事の皆様、市長の皆様、本当にありがとうございました。有意義なディスカッションができたのではないかと私は思っております。

先ほど、万博につきましては説明したとおりでございます、我々もある程度危機感を持って進めてるところでございます。ディスカッションの中でいろんなことがございましたけども、次回の関西経済界とも意見交換会につきましては咲洲でやらせていただければ、もっと理解が深まるのではないかと思っております。

それでスポーツにつきましては、タスクフォースというキーワードが出てまいりました。これは官と民で、いろいろ知恵を出し合って関西がスポーツの非常にインフラ

の底辺の広い、そしてトップアスリートができるような雰囲気、そしてソフトレガシーとしてみんながスポーツを楽しめると、それが健康につながっていくんだというソフトなレガシーがワールドマスターズゲームズ2021でできればいいなという感じがしております。

私どもそれを受けまして、森さんの後を受けて、私も連合長と同じく会長というような話になってます。会議がまた、来週か今週あるんですけども、そうすると会社のみんなに言ってるんですわ。500人出しましょうと、ワールドマスターズゲームズに。そういう動きができれば、5万人ぐらいじゃなくて、もっとたくさんの方が参加して、ニュージーランドでは、スケールが小さくてどこでやってるのか分からないようなワールドマスターズゲームズだったんですけども、今度日本でやるのであれば、5万人、6万人と集めてどんとやるということで、産業界、このあたりの会社は物すごいたくさんの方を抱えていますから、500人、1,000人ぐらい出しなさいって、1人2万円で、500人で1,000万円だと。それぐらいは会社で引き受けてもよろしいと、そんな話をしています。ですから、参加人数については連合長、心配しないでください。これが1点ですね。

広域行政につきましては、私もずっとやってましたけど本当に難しいところがありました。もう一つ、今までも二元システムというのは本当にいいのかということで、制度設計に問題があるのではないかということ副会長のときは考えてたんですけども。連合長のほうも、この前も京都の財界セミナーでちょっとそういうことを言われましたので、関経連のほうも、この地方分権・道州制というその流れの中で、何かきらりと輝くようなものが提案できればいいなと、みんながそうかなと思うようなことが提案できればいいのかなというふうに思ったりしております。ぜひ広域連合と関西の経済界で話を持たせていただいたらどうかと思っております。

本当に今日は暑い中どうもありがとうございました。本当に有意義な会議でした。どうもありがとうございました。

○関西経済連合会専務理事（関総一郎） ありがとうございました。関西広域連合の皆様におかれましては、引き続きご意見、ご指導等を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

以上をもちまして、本日の意見交換を終了いたします。本日は長時間まことにありがとうございました。